

## ⚠ ハードキープ取り扱い上の注意

- ①ハードキープは、地盤改良を目的としたセメント系固化材です。モルタルやコンクリート等に用いないでください。
- ②ハードキープは、事前に配合試験を行っていただき、適正な添加量でご使用ください。
- ③ハードキープを過剰添加した場合、結合水の不足による固化不良を起こす可能性があります。また、過剰添加による未水和のハードキープが残存した場合、施工後の降雨等による水の供給により膨張を起こす可能性があります。
- ④ハードキープには極微量のクロム化合物が含まれています。ハードキープを用いた改良土から稀に土壤環境基準を超える六価クロムが溶出する場合がありますので、事前に試験を行っていただき、溶出量をご確認ください。
- ⑤ハードキープと土の混合が不十分な場合、固化不良や膨張を起こす可能性があります。また、六価クロムの溶出量が高くなる場合があります。
- ⑥ハードキープを使用する場合、井戸等の水源近くでの過剰使用は避けてください。
- ⑦改良対象土中に化学反応を起こす物質等の異物が混入している場合、改良土に品質異常が生じる場合があります。例えば、硫酸分(SO<sub>3</sub>)の多い地盤に使用すると膨張を起こす場合があります。
- ⑧六価クロムに対して過敏な場合、ハードキープを使用してアレルギーが起こる可能性があります。
- ⑨ハードキープは、水と接触すると水酸化カルシウムを生じ、アルカリ性(pH12~13)をしめします。ハードキープが目に入ったり皮膚に付着した場合、速やかにきれいな水で洗浄し、専門医の処置をお受けください。また、吸入した場合、速やかに新鮮な空気のある場所へ移動し、専門医の処置をお受けください。
- ⑩ハードキープを多量に長時間吸入すると人体に害を及ぼす恐れがあります。
- ⑪ハードキープを使用する際は、手袋、保護メガネ、防塵マスク等の保護具を着用してください。
- ⑫スラリープラント等で発生する洗浄水は、水質汚濁防止法等の関連諸法令に適合するよう十分留意してください。
- ⑬ご使用後のフレキシブルコンテナや紙袋およびハードキープの残材は、法律に基づき適切に処理してください。

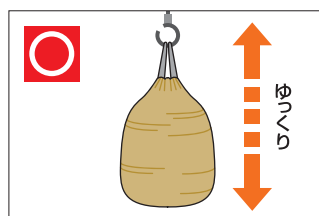
セメント系固化材

# ハードキープP-430

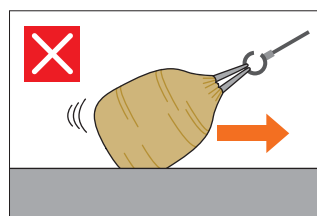
一般軟弱土用固化材【汎用品】

## ⚠ フレキシブルコンテナ品の取り扱い上の注意

吊上げる場合



急な吊上げ、吊おろしはしないでください。

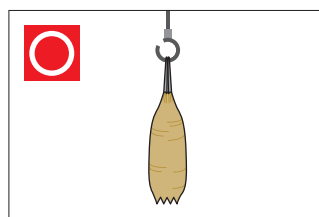


横びきはしないでください。

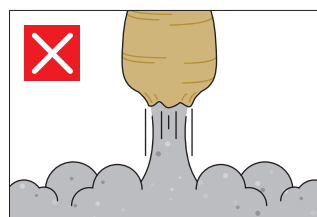


吊ロープをフックに正しく掛け、片吊はしないでください。

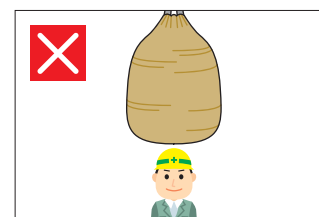
排出する場合



内容物を残さないように全量排出してください。

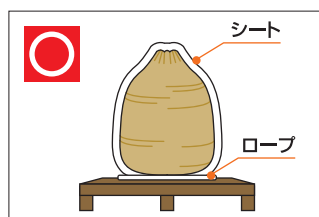


発塵を防止するために、できるだけ低い位置で排出してください。



吊上げたフレコンの下に入らないでください。

保管する場合



仮貯蔵をする場合、水に濡れないように直置きはしないでシート等で覆ってください。



※カタログに記載されている数値は、測定値の代表例です。 ※カタログに記載されている内容は、本製品の適用結果を保証するものではありません。  
 ※カタログ内容は、予告なく変更することがあります。

## 株式会社 トクヤマ

- セメント東京販売部
- セメント大阪販売部
- 広島支店
- 高松支店
- 福岡支店

〒101-8618 東京都千代田区外神田1-7-5 フロントプレイス秋葉原  
 〒530-0005 大阪市北区中之島2-2-7 中之島セントラルタワー  
 〒730-0017 広島市中区鉄砲町8-18 広島日生みどりビル  
 〒760-0023 高松市寿町2-1-1 高松第一生命ビル新館  
 〒810-0001 福岡市中央区天神2-8-38 協和ビル

☎03-5207-2519  
 ☎06-6201-7207  
 ☎082-223-7311  
 ☎087-822-0061  
 ☎092-732-6677

【ホームページ】<http://www.tokuyama.co.jp>

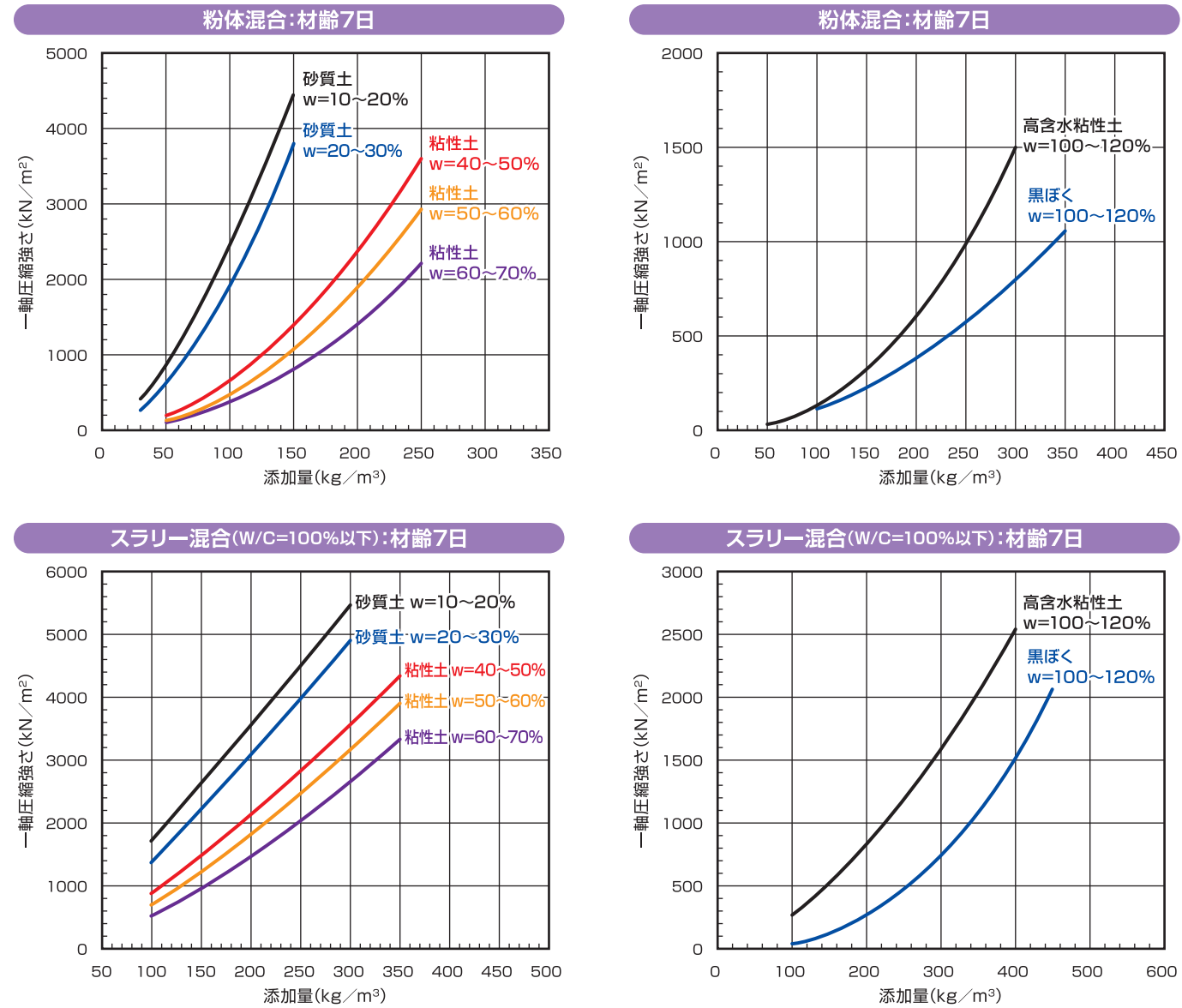
株式会社 トクヤマ

# ハードキープP-430 一般軟弱土用固化材【汎用品】

ハードキープP-430は、軟弱地盤の浅層改良や深層改良、建設発生土の改良、底質の固化処理など幅広い用途に適用できる汎用的な固化材です。

## 室内配合試験の結果を統計処理した一例

### 添加量と一軸圧縮強さの関係



※グラフ中のw：含水比  
※「ハードキープ技術資料」にもデータがございますので参照ください。

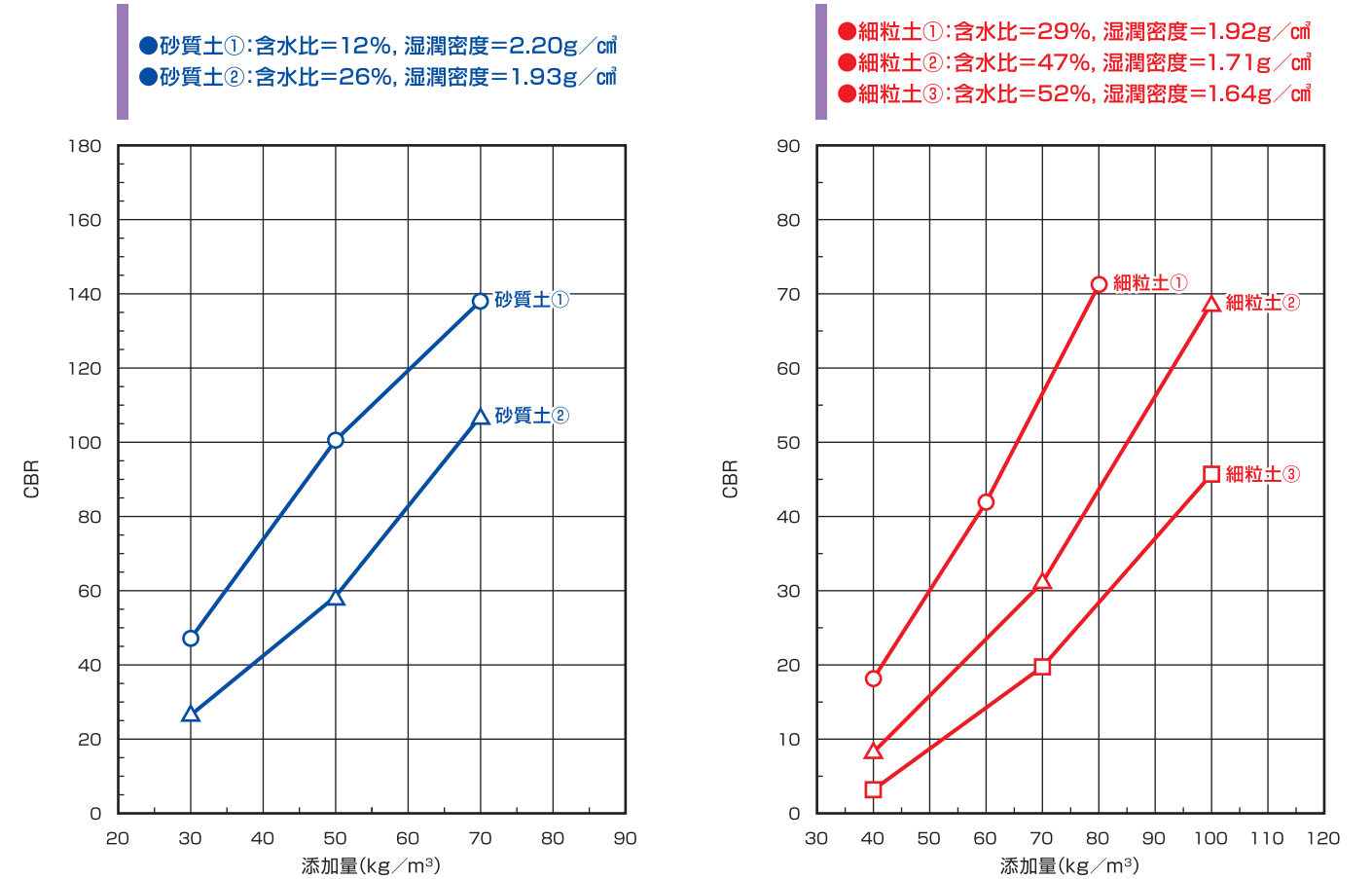
### 一軸圧縮強さの増加【土質別関係式:材齢7日~28日】

対象土	粉体混合	スラリー混合
砂質土	$qu_{28}=1.27 \times qu_7$	$qu_{28}=1.42 \times qu_7$
細粒土 (含水比=100%未満)	$qu_{28}=1.29 \times qu_7$	$qu_{28}=1.43 \times qu_7$
細粒土 (含水比=100~200%)	$qu_{28}=1.32 \times qu_7$	$qu_{28}=1.32 \times qu_7$
火山灰質粘性土 (黒ぼく)	$qu_{28}=1.18 \times qu_7$	$qu_{28}=1.24 \times qu_7$

※qu7:材齢7日の一軸圧縮強さ ※qu28:材齢28日の一軸圧縮強さ

## 室内配合試験結果の一例

### 添加量とCBRの関係



### 六価クロム溶出試験結果

~室内配合試験時(配合設計段階)の改良体からの六価クロム溶出試験結果の一例~

対象土	土質性状		配合		六価クロム溶出量(mg/l)
	含水比(%)	湿潤密度(g/cm <sup>3</sup> )	添加量(kg/m <sup>3</sup> )	W/C(%)	
砂質土	17.3	2.077	50	—	0.03
砂質土	25.1	1.961	130	—	0.02
シルト	44.7	1.698	80	—	0.04
粘性土	70.5	1.591	100	—	0.03
高有機質土	135.5	1.324	110	—	0.02
砂質土	10.6	1.780	250	70	0.04
砂質土	27.4	1.910	350	80	0.02
シルト	52.2	1.650	350	70	0.02未満
粘性土	86.7	1.516	350	100	0.03
高有機質土	61.8	1.610	350	60	0.05

※六価クロム溶出試験:環境庁告示46号(平成3年) ※土壤環境基準値:六価クロム 0.05mg/l 以下  
※ハードキープを用いた改良土から稀に土壤環境基準値を超える六価クロムが溶出する場合がありますので、事前に溶出試験を実施し溶出量を確認してください。